

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	第一種電気工事士実技	
科目基礎情報							
開設学科	電子・電気科		コース名	電気工事コース		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修 選択		時間数	60時限
単位数	2単位					授業形態	実習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	内田寿彦			実務経験の有無・職種	有・ 第一種電気工事士		
学習目的							
この科目を受講する学生は、国家資格であり電気工事業界でも上級資格である第一種電気工事士取得に向けた技能試験合格の為のノウハウを習得する事が目的となります。専門的な電気工事材料のや専用工具への理解が必要になります。国家試験の実施は年1回であり、受験日に向けた取り組みが求められます。試験実施機関より公表される技能試験問題（10問）をすべて理解し時間内に完成し、欠陥の無い作品を完成させるための授業内容となる。写真やテキストだけでなく技能試験課題を繰り返し演習する事で理解を深め、試験合格を目指すのが狙いです。							
到達目標							
この科目では、学生が電気工事業界から求めら、今後進むべき「第一種電気工事士」としての技能試験合格が求められます。受験資格を得ることが出来た筆記試験合格者のみが技能試験を受験する事が出来ます。筆記試験合格者は技能試験の1度での合格を目指します。筆記試験不合格者は、来年度以降の筆記・技能試験合格の為の準備として演習を行います。試験合格後免状発行には5年間の実務経験が必要なので、その後の現場経験に活かせるような基礎知識の習得が目標となります。また業務活動を行うための必要な技術を理解することを目指している。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、国家試験のため個人ワークが中心となります。国家試験に精通した教師・講師陣と連携し、実際の判定作業や試験時間・会場に合わせた内容で演習を行います。授業中での行動を通じて、学生の「国家資格取得に対する意識」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分自身の実力で資格取得できるようになることを目指す。						
注意点	この授業では、時間・正確さ・観察能力を重視する。国家試験受験の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	60%	試験と課題を総合的に評価する				
	課題	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	基本条項			技能試験の実施について理解する			
2回	基本作業1			使用材料・工具について演習を行い理解する			
3回	基本作業2			基本作業について演習を行い理解する			
4回	基本作業3			公表問題について演習を行い理解する			
5回	公表問題演習1			公表問題の演習を行い理解する			
6回	公表問題演習2			公表問題の演習を行い理解する			
7回	公表問題演習3			公表問題の演習を行い理解する			
8回	公表問題演習4			公表問題の演習を行い理解する			
9回	公表問題演習5			公表問題の演習を行い理解する			
10回	公表問題演習6			公表問題の演習を行い理解する			
11回	公表問題演習7			公表問題の演習を行い理解する			
12回	公表問題演習8			公表問題の演習を行い理解する			
13回	公表問題演習9			公表問題の演習を行い理解する			
14回	公表問題演習10			公表問題の演習を行い理解する			
15回	まとめ			全体のまとめ			